

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
<p>1 学びがあり進路実現できる学校</p> <p>①習熟度別授業、AL型授業を充実し、授業力を向上する。</p>	<p>* 習熟度別授業 * 個別添削指導 * AL型授業のための研修会</p>	<p>タブレットなどのICT機器を活用した授業を受けることで授業理解が深まったと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>92.4% A</p>	<p>成果：中間評価時の87.9%から割合が増加した。教職員へのタブレット支給や各教室のプロジェクター配置に加え、授業におけるChromebookの生徒利用も増加しており、大多数の生徒がこうしたICT機器によって授業理解が深まったと感じている。</p> <p>課題：これまで以上に、授業における様々な活動においてICT機器を利活用する場面を研究開発していくことが課題である。</p> <p>改善策：校内及び校外での先進的な取り組みの研修を行う。具体的には、GIGAスクール校内研修などによって、ICT機器を有効に利活用する授業法の研究開発を一層進めていく。</p>
<p>②生徒が主体的、能動的に学ぶ姿勢を育成する。</p>	<p>* 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談</p>	<p>自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>85.6% A</p>	<p>成果：中間評価時の75.3%から割合が増加した。習熟度別課題の充実や学習時間調査の実施、また個別面談によって、生徒の主体的に学習しようとする意欲が高まったと思われる。</p> <p>課題：生徒の回答の内、「ある程度身についた」が54%に対して「身についた」が31%である。「身についた」との回答の割合をより増加させることが課題である。</p> <p>改善策：今年度の取組を総括し、習熟度別課題、学習時間調査、個別面談をより充実したものに変えていくことで、生徒の学習に対する取組をさらに充実させる。</p>
<p>③3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。</p>	<p>* 3年間を見通した指導計画の作成とPDCA実践 * 指導の記録 * 個別面談</p>	<p>3年次の進路実現を見通した授業等の改善ができたと考える教員の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>87.1% B</p>	<p>成果：中間評価時の74.2%から割合が増加した。研究授業等を通じて授業改善への意識が高まったと思われる。</p> <p>課題：改善があまりできなかったと考えている教員へのアプローチが課題である。</p> <p>改善策：進路実現に向けての授業改善に加え、Chromebookが生徒一人に一台ずつ配布され、授業レイアウトが今後大きく変化することが予想されるため、それらに対応するためにも、校内研修等を通じて重要性を周知し、スキルアップを図る。</p>
<p>学校関係者評価委員の評価</p>		<p>・長期にわたって取り組んでいるICT機器の利活用について、成果が徐々に現れてきている。今後も校内研修を更に充実させ、学習への主体性が育まれるよう取り組んでほしい。</p>		
<p>学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策</p>		<p>・校内でのGIGAスクール研修を、すべての教科において更に充実させる。</p>		

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
2. 人間力を向上できる学校 ①学校行事を通し、仲間を大切にし、他者を思いやる心を育成する。	* チャレンジウォーク * 文化祭 * 体育祭 * 球技大会	学校行事への取組を通し、思いやりをもって他者と協働することができたと考える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	93.9% A	成果：中間評価に比べ0.4%の増加であったが、内訳をみると「できた」とする割合が6.9%増加している。生徒会役員が他者と協働する場面を自分たちで考え、体育祭においてはクラスだけでなく部活動内でも協働の場面があったことから、他者と協働する意識が高まったと考える。 課題：協働の意欲や他者を思いやる気持ちはあるが表現が苦手な生徒もいるため、個々に能力を発揮できる場面を増やす必要がある。 改善策：自分を表現しやすい環境および学校行事を構築するため生徒の意見を多く取り入れるよう工夫する。
②課外活動を通し、主体的、能動的に行動できる生徒を育成する。	* 部活動 * ボランティア活動	部活動やボランティアなどの課外活動にすすんで取り組み、自ら考え行動しその活動に貢献することができたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	85.9% A	成果：中間評価に比べ2.7%の増加となった。昨年度同時期と比較し、「できた」「ある程度できた」と解答した生徒の割合が6.0%向上した。後期は部活動の制限が比較的少なく、昨年度に比べ大会にも通常通り参加できたためと考えられる。 課題：自ら進んで考えボランティア活動に参加し、自発的に行動しようとする生徒は少ない。 改善策：ボランティア活動についての情報をさらに多く発信し、気軽に参加できるよう促していく。
③生徒一人ひとりが地域の人たちと係わる中で、積極的に自己研鑽する姿勢を育成する。	* 全校挨拶運動 * 登校指導 * みだしなみ指導	身だしなみがしっかりとした生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	94.3% A	成果：毎月実施した中で、一部の生徒を除き、大多数の生徒が身だしなみの規定を遵守している。ここ2年ほどは、この傾向が続いている。 課題：上記における一部の生徒の身だしなみにも、途中改善は見られるが長期休暇などの後、しっかりとした身だしなみ保持に緩みが見られる。 改善策：上記生徒の長期休暇や長期欠席などの事前事後の指導を、学年、生徒指導課、生徒会課、相談課等と生徒理解における情報共有を通して、組織的に対応する。
学校関係者評価委員の評価		・身だしなみについては、かなりの生徒がしっかりと身だしなみ規定を意識していると思われるが、ごく少数の意識できない生徒が周囲に与える影響が数字以上に大きいと思われる。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		・中学校でも同様の課題を抱えているため、中高で連携した取組を行うことで、意識の向上を図る。		

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
3. 地域と共に成長できる学校 ①小中学校等との協働研究事業を推進する。	* 地域連携の協議会 * 授業公開と授業参観 * 研究授業と研究協議会	地域の教育力の向上に関わる協議会、授業参観、研究授業等に参加した教員の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	61.3% A	成果：コロナウィルス感染防止のため、他校での協議会、授業参観、研究授業等に参加しづらい状況であるが、過半数の教員が校内外における協議会、授業参観、研究授業等に参加できた。 課題：地域の教育力の向上に関わる協議会、授業参観、研究授業等に参加する教員の割合を増加させることが課題である。 改善策：オンラインでの協議会、授業参観、研究授業等も活用するなど、感染防止を徹底させた様々な取り組みを模索していく。
②小中学校との生徒間交流事業を拡充する。	* 挨拶運動 * 中高学習交流 * キャリア教育講演会 * 体験入学	小中高を超えた生徒間交流事業や地域的行事に関わり、自己の活動に有用感を感じている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	※年間を通して生徒間交流事業や地域的行事に参加する機会が少なかった為、アンケートは実施せず	成果：体験入学では、6中学校139名の中学生の参加があった(申込時点では148名)。中学生のアンケート内容は「良かった、役に立った」が93%であり、部活動体験・見学で高校生と交流できたことを一番の良い印象として記述する中学生が数多くいた。 課題：小中学校を超えた生徒間交流活動や地域的行事への参加については、学校間や地域との間を連携できる役割の人や組織が必要である。 改善策：コロナ感染の収束がなければ実施できない活動である。現在は地域の高校として、ホームページや輪高だより、学校紹介パンフレットなどでの情報発信に努めたい。
③実践的・探究的地域学習を充実し、地域貢献意識の向上を図り、地域に誇りを持った人財を育成する。	地域調べ学習と成果発表 朝市出店販売実習 地域ボランティア	課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができたと考える生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	86.4% B	成果：中間評価の78.6%から割合が増加した。2年生が9月に「ポスターセッション」を行い、1年生は2学期に「輪島起業家による意見交換会」等の「ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業」に参加した。これらの活動を通して、地元の良さや魅力、課題などについて理解を深めることができた。また、3年総合学科生徒がアイデアを提供した「輪島ふぐのおにぎり」が、道の駅千枚田で販売され人気であった。 課題：コロナ感染予防の為、調べ学習でのフィールドワークや学習の成果を発表する機会が限定された。 改善策：オンラインでの他校との合同発表会や、地域シンポジウムへの参加など、現状のコロナ禍でもできる工夫や取り組みを模索していく。
学校関係者評価委員の評価		・学校や地域はコロナ禍の影響を強く受けているので、様々な行事等に制限があり、生徒にとっては辛い日々が続いているが、この状況が収束し、次年度以降は通常の活動が可能になることを期待している。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		・感染状況が収束した際に、従来と同様の活動ができるよう、小中学校への情報発信を継続して行い、情報交換や連携を密にしている。		

令和3年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	判定基準	成果・課題・改善策
4. 多忙化改善を積極的に実現する学校 ①業務の平準化により一層の効率化を図る。	* 行事の精選・省力化 * 会議方法の工夫 * 定時退校日の設定 * 時間外勤務時間調査 * 校務分掌の見直し	教員一人あたりの月平均時間外勤務時間が昨年度より A 10%以上減少した B 5%以上減少した C 3%以上減少した D 3%未満の減少であった	9.0% B	成果：6～12月と比較したところ昨年度より月平均4時間28分減少している。80時間を超える職員も計15名から7名へと半減し、45時間未満の職員が増加していることは、生活リズムの改善を意識しワークライフバランスを考える職員の増加があると思われる。 課題：定時退校日設定の意義をしっかりと考えるなどの意識改革を進めるとともに、時間管理を徹底することで計画的、効率的な業務遂行の意識を高める必要がある。 改善策：定時退校日の意義を職員で共有し実施するとともに、チームで働く意識を高め、綿密に連絡をとりあうことで業務の平準化をさらに進める。
②ワークライフバランスを考えた教員の意識改革を図る	* 校内研修の充実	校内研修により、校務を効率よく進めることができるようになってきたと考える若手教員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	93.3% A	成果：教職としての素養、学習指導、生徒指導、組織マネジメント等について、若手研修等の校内研修を12月までに40回行ってきた。若手教員へのアンケート結果では「そう思う」「おおむねそう思う」が93%となり、若手教員は、真摯に研修に取り組んだ。 課題：研修の目的は、必ずしも校務の効率化とは限らないが、ICT機器の活用、教材の共有化などの視点から、校務の効率化を進める意識を培う研修が必要であると思われる。 改善策：ICT機器の活用研修、教科会での情報共有などの機会を増やすことにより、校務の効率化を進める。
③タイムマネジメントを生徒に意識させる学習指導、部活動指導の確立を図る。	* 生徒会、部活動 * 挨拶運動 * HRでの学習指導 * 部活動の計画づくり	生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して A 100日以上 B 90日以上 C 80日以上 D 80日未満	80日未満 D	成果：不注意遅刻「0」の日数が58日であった。 課題：目標を大きく下回った理由は、本年度は、生徒指導課と保健厚生課が連携し、コロナ感染防止対策として検温後の教室入室を徹底したため、遅刻となる生徒が1学期は多かったことである。9月以降は改善し、遅刻数は減少したが、11月以降は一部の生徒が不注意遅刻を繰り返す状況となっている。遅刻を繰り返す生徒には、個別に事情もあり、生徒指導課からは指導・助言だけではなく、生徒が話す内容を傾聴するようにも努めている。 改善策：コロナ禍の感染症対策や生徒の心身の体調や状況などを俯瞰しながら、各評価段階の達成日数を設定する。
学校関係者評価委員の評価		・校内研修の充実や、授業力の向上に積極的に取り組んでいることがよくわかった。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		・ICT機器の利活用を更に工夫することで、業務の平準化や作業の効率化、チームで働く意識の向上に努める。		